

11/18(金)「2022年度第2四半期決算 IR 電話会議」説明要旨

- 皆様、こんばんは。小宮でございます。本日はお忙しいところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より当社をご支援いただき、感謝申し上げます。
- 電話会議の皮切りといたしまして、まず私から、「今回の決算内容」と「これらを踏まえました、経営からのメッセージ」につき、ご説明させていただきます。

【Key Messages】

- 3ページをご覧ください。本日お伝えしたいポイントは、大きく3点となります。
- 1点目は、当社事業の「基調」についてです。
足元当社は、コロナや自然災害などの影響を受けておりますが、こうした「一過性の影響」を除いた基調は、海外主要拠点を中心に、「引続き好調である」ということです。実際に、Normalized ベースの利益予想も、今般、+100億円上方修正し、5,600億円を見込んでいます。
- 2点目は、足元当社が影響を受けております「一過性の影響」についてです。
2022年度通期で、合計(マイナス)▲1,600億円を見込んでおりますが、この内、コロナ損失が▲1,300億円となっております。この主因は台湾コロナでありまして、足元の感染拡大を踏まえて▲910億円と見直したことによるものです。
なお、業界史上2番目の大きなロスが見込まれるハリケーン Ian ですが、Specialty を中心に事業を行う当社業績への影響は、そこまで大きなものとはならず、当社の海外自然災害予算の「範囲内」となる見込みです。
- 3点目は、「株主還元」についてです。
予てより私は、「利益成長と DPS Growth は整合的であるべきだ」、「自己株取得も規律を持って実行していく」、その様に、お伝えしてきました。
その中で、当社事業ですが、ご説明の通り、足元「一過性の影響」はありますものの、「基調」は強い。その様に考えています。従いまして、2022年度の DPS は、年初計画通り 100円。DPS Growth で+18%を維持します。
また、自己株取得ですが、経営として「足元の資本は充実している」との認識ですので、こちらも、年初公表の年間 1,000億円を維持し、残りの 500億円の実行を決定しています。
- それでは、これらのポイントを、もう少し詳しくご説明したいと思いますので、4ページをご覧ください。

【トプライン】

- まず、トプラインです。
- 第2四半期の実績は、海外が牽引し、「正味収入保険料が+18.7%」、「生命保険料

が+13.0%」の増収となっています。「除く為替」でも、それぞれ「+10.4%」、「+3.1%」の増収と、いずれも、5月に公表しました通期予想を上回るペースで進捗しております。基調は「好調」です。

- その中での通期予想ですが、足元の好調な基調を踏まえて上方修正し、前年度対比、「除く為替」で、「正味収入保険料は+9.1%」、「生命保険料は+2.8%」を見込んでいます。
- 次に、修正純利益についてご説明しますので、5ページをご覧ください。

【修正純利益 2Q 実績の評価】

- 「一過性の影響を除いた“基調”が、引続き好調である」ことは、先程の通りですが、具体的に、第2四半期実績の中身について、ご説明いたします。
- 国内の東京海上日動ですが、
 - ① 6月の震災や台風を主因に、国内自然災害予算の費消が速いこと
 - ② 南アフリカで発生しました洪水の影響
 - ③ 国内の感染率拡大に伴うコロナ保険金の増加
 - ④ 円安に伴う外貨建て支払備金の積増し等の発生といった「一過性の影響」を受けた訳ですが、これらを除いた「年初予想対比の進捗率」は54.8%となっており、基調は順調であります。
- 続いて、6ページをご覧ください。
「あんしん生命」ですが、こちらも「コロナ保険金の増加」や「円安に伴う、ヘッジ会計を適用していない運用資産に対するヘッジ損失」といった「一過性の影響」を受けた訳ですが、これらを除いた進捗率は51.5%となっており、やはり、基調は順調です。
- そして「海外保険」ですが、8/5に公表済の、第2四半期に計上する「台湾コロナの影響▲539億円」という「一過性の影響」や、「円安に伴う円換算利益の増加」という影響もあります。
こうした影響を除いた進捗率は、56.5%となっており、基調は良好と申し上げてよろしいかと思えます。
実際に、海外主要拠点の第2四半期実績は、現地計画対比、つまり円安効果を除いても+230億円上振れています。
- 次に、通期予想についてご説明しますので、7ページをご覧ください。

【修正純利益の通期予想 (Actual ベース)】

- 「Actual ベースの修正純利益予想」は、年初予想対比▲1,500億円下方修正となる「4,000億円」を見込んでいます。
- これは、当社の実力自体は確実に向上しているものの、コロナの感染拡大や、国内自然災害など、「一過性の影響」が▲1,600億円と大きかったことによるものです。
- その中でも、特に影響の大きかった「台湾コロナ」に関しまして、状況をご説明いたしますので、8ページをご覧ください。

【台湾コロナ】

- 8/5 に公表しました通り、当社は第 2 四半期に、台湾コロナに起因する損失といたしまして、▲539 億円を計上します。
この前提としておりました、台湾における累計コロナ感染率は「30%」でしたが、10 月末時点で 32%を超えるなど、足元、感染が拡大しています。
その中で、今般当社が認識する台湾コロナの影響も、▲910 億円に見直すこととしました。見直し後の累計コロナ感染率は、44%となります。
- 感染率の予想は非常に難しい訳ですが、台湾コロナの引受けは、来年 2/15 までとなりますし、この悪影響を、2023 年度にまで引きずることはありません。
- 9 ページをご覧ください。

【修正純利益の通期予想 (Normalized ベース)】

- こちらには、「一過性の影響」を除いた「Normalized ベースの修正純利益予想」をお示ししています。
ここまでご説明の通り、当社事業の「基調」は好調でありますことから、今般、年初予想対比+100 億円上方修正しまして、5,600 億円としています。
- これは、前年度の Normalized 対比で、+9%の利益成長となる水準です。
- 利益ドライバーは、北米を中心とした海外保険の Organic Growth となりますが、当社の実力は確実に向上していると考えておりますし、この辺りは来週予定しております IR 説明会でも、詳しくご説明したいと思っております。
- 最後に、私からのまとめですが、2022 年度業績につきましては、ご説明の通り「一過性の影響」が相応に大きかった訳ですが、そうであるからこそ、経営といたしましては、
①個々の事業を強くしていくということ、
②その上で、「グローバルなリスク分散戦略」と「グループ一体経営」の実行を通じて、
経営のレベルを引き上げていくということ
が、非常に重要だと考えています。
- しっかりと、そして一段と気を引き締めて、取り組んでまいりますし、こうした結果として、「今後も世界トップ・クラスの EPS Growth を持続」し、「ROE もグローバルピアに伍する水準まで引き上げる」、そうした強い思いを持って経営にあたっていきたい。その様に考えておりますし、詳細は、また来週の IR 説明会でご説明させていただきます。
- 私からのご説明は以上です。

【株主還元】

- CFO の岡田でございます。最後に、株主還元についてご説明させていただきますので、10 ページをお開き下さい。
- 改めまして、当社の株主還元の基本は配当で、「利益成長に応じて、持続的に DPS を高めていく」というものです。
そして、小宮からご説明しました通り、2022 年度の Actual ベースの修正純利益は、「一過性の影響」により下方修正となりましたが、Normalized ベースの利益基調は力

強く、また、配当原資である5年平均の修正純利益も、**3,750** 億円から **3,900** 億円へと前年度対比で増加しています。従いまして、**2022** 年度の **DPS** は、期初計画通り、株式分割反映前のベースでは **300** 円、株式分割後のベースでは、**100** 円とし、**DPS Growth** で**+18%**を維持いたします。

- また、資本水準の調整に関するスタンスも変わりません。従来同様、当社の企業価値、**ROE** 向上に資する **M&A** やリスクテイクの案件があれば「実行」し、機会に恵まれなければ、「自己株取得を実行」します。
- **2022** 年度につきましては、5月に年間 **1,000** 億円という年初時点での方針を開示致しましたが、足元の **ESR** は **122%**と資本は充実していますので、年間 **1,000** 億円を維持することとし、本日開催の取締役会にて残りの **500** 億円の実行を決議しております。
- 当社と致しましては、経営戦略を着実に実行し、**EPS**も **ROE**も、**volatility**を抑えながら、引き上げていく、そして、資本市場の皆さまのご期待に応えていきたい、この様に考えていますので、引続きのご支援をよろしくお願いいたします。
- 私からのご説明は以上です。

以 上